

パレット (その二)

陶製で、幾個にも區別された硯がある、これも室内用で、乾製繪具を溶くに用ひられる。

パレットが汚れてゐないと大美術家でないやうに思ふ人もある、こんな人はパレットが何のためによく塗つてあるか知らぬのであつて、いつも畫面をパレットの代用にして居る、このやうな人に限つて寫生しながらいつも嘘の色をつけて平氣でゐる。大美術家を銜つて失敗した寫生畫を作るよりも、パレットが清潔で素人呼ばりをされても、立派な寫生の出来る方がよい。

パレットは常に日本紙か綿布で拭つて清潔にして置くべきものであつて、用の濟んだ時は、筆洗の殘水を筆に含ませて繪具をよく洗ひ取つて置くことにしたい。

二つ折パレットに繪具を出すには、明るい色から暗い色との順序で并べてゆく、白、黃、赤、綠、藍といふやうにする、繪具が勝手放題に並べてあつては色を見出すのに不便であり、又同感色が並んでゐたら、隣りの繪具に混じてもさして害はないが、黃と藍とても並んでゐると、混ると縁になつて双方使用に耐へぬことになる。

パレットの上の繪具の順序が極まつてゐると、無意識に筆を持つて往つても、目的の色をつける事が出来るやうになる、暗闇でも分る筈である。

箱入の繪具は、必ずしも明るい色から暗い色と順序よくは並んでゐないから、自分で取合のよいやうに入換るもよい。(完)

* * * * *